

## 会 議 要 旨

会議名	平成29年度 第1回館山市文化財審議会
開催日	平成29年 7月14日(金) 午後1時30分から2時40分
開催場所	館山市コミュニティセンター第1学習室
出席者	文化財審議会委員 6名 教育委員会教育長、事務局 3名
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	0名
会議概要・結果等	<p>1. 開 会</p> <p>2. 館山市教育委員会 あいさつ</p> <p>3. 会長あいさつ</p> <p>4. 審議事項</p> <p style="padding-left: 2em;">(1)「柏崎区國司神社御船「國司丸」」の指定について</p> <p style="padding-left: 2em;">(2)「布良崎神社の石棒」の指定について</p> <p>5. 館山市文化財の指定に関する答申書の答申について</p> <p style="padding-left: 2em;">「柏崎区國司神社御船「國司丸」」</p> <p>6. 報告事項</p> <p style="padding-left: 2em;">(1)平成29年度文化財関連事業について</p> <p style="padding-left: 2em;">(2)登録文化財について</p> <p>7. その他</p> <p>質疑応答・意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・國司丸は文政7年の勝山調による「曳舟ノ図」に描かれ、また文化年間の墨書が残るとされる点からも貴重なものと評価される。</li> <li>・しかしながら、今も祭礼に使用されるなかで現代的に改変されてきており、今後も現状が一定の状態で維持されることが非常に難しいことから、館山市有形民俗文化財に指定するには適当ではない。</li> <li>・ただし、御船を曳きまわす祭りは海に囲まれた安房地域の特徴的な祭りであり、無形民俗文化財としての価値が高い。</li> <li>・今後、安房地方の船型を使う祭りの特徴が明らかにされた時点で、御船を曳く祭りを無形民俗文化財として再考したい。</li> </ul> <p>→答申</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布良崎神社の石棒は、両頭の緑泥片岩で縄文時代中期から後期のものと考えられ、石についての付属物から海中にあった可能性が高い。</li> <li>・石は秩父産出の可能性があり、石材そのものの調査の他に、製作地、流通についても考えないといけない。</li> <li>・石棒があったと伝えられる駒ヶ崎洞窟は海神信仰のため、海中から</li> </ul>

	<p>出たものをおさめた可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・明治時代には神社で石棒を保管していることが知られており、近年運び込まれたものでないことは確かである。</li><li>・今後は、他の事例、伝承、産地、流通経路などを調べるとともに実測図をとりながら調査を進める。</li></ul> <p>→継続審議</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・登録文化財の候補については、市内には他にも特徴的な建物が数多くある。</li><li>・所見に使用している言葉の定義を明確にするるとともに、どういった点を特に評価するのか明確にすること。</li><li>・指定は厳密すぎるため、登録というゆるやかな文化財の保護制度を用いて活用するのはいい。</li><li>・今回、所有者から登録希望が出ている建造物をきっかけにして、市内に登録が増えるのはいいことではある。</li><li>・この所見では登録となるのは難しい。前向きに検討するのであればさらに調査を行い、所見を書き直す必要がある。</li></ul>
--	--